

経営比較分析表

青森県 おいらせ町

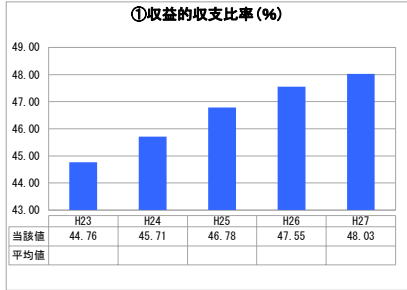
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	58.66	83.54
1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)			
2,592			

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,254	71.96	350.94
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
14,763	5.95	2,481.18

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



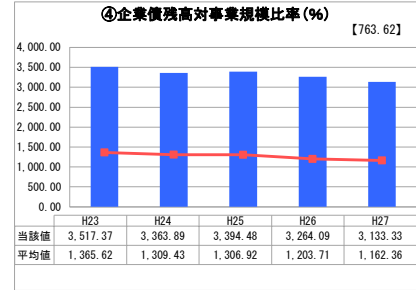
「単年度の収支」



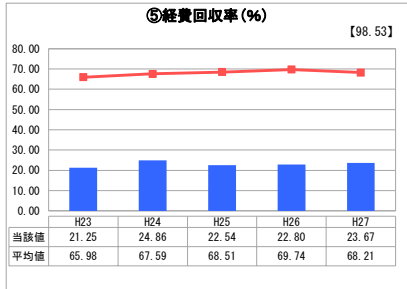
「累積欠損」



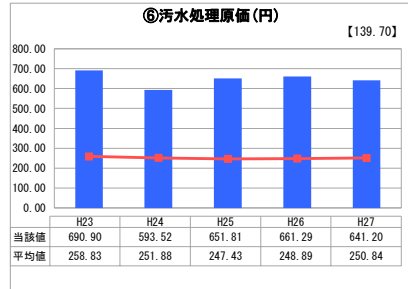
「支払能力」



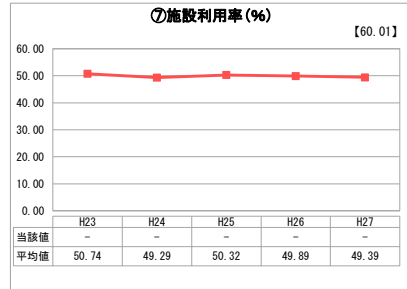
「債務残高」



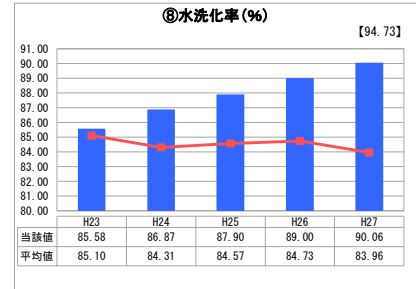
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

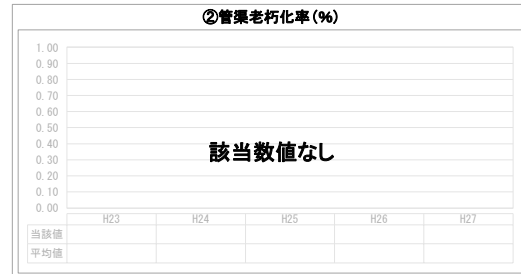


「使用料対象の捕捉」

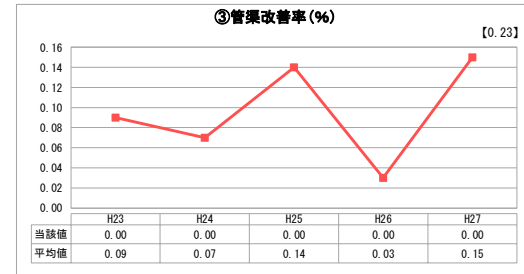
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【健全性】
各数値とも健全性を保っている状況ではない。特に収益的収支比率が40%台であり自立した運営となっていないこと、企業債残高が類似団体と比較して2.5倍以上であり、負債が多額であるため財政上一般会計に頼る仕組みとなっており健全性に乏しい状況である。

【効率性】
汚水処理原価が、非常に高い状況にあり、費用の効率性が低い。水洗化率が高いため、後年度に大幅な使用料総額の増額は見込めないと推察されることから、経費回収率の改善は見込めない。今後の事業効率性を踏まえ、適切な使用料単価を検討していく等、継続的事業運営に向けた取組が急務となっているといえる。

2. 老朽化の状況について

・管渠は、供用開始後20年経過している。一部事業の移管により、30年程度経過しているものも有。
・老朽化は全般的に進んでいないものの、調査・点検により、腐食・破損の状況が明らかになってきているため、ストックマネジメント計画を策定し、将来に備えた老朽化対策を進めていくことが必要となっている。

全体総括

【総括】
・経営面は、水洗化率を除き全ての指標において、類似団体を下回り、厳しい状態であるといえる。
・収入の確保対策が急務であるとともに、支出においては細部において経費削減対策が急務といえる。

【課題】
当区域は、流域下水道事業であり、指標の悪さからも過大投資と思われる部分があるためスベックダウン等を検討する等の対策を講じる必要があると推測する。流域事業に関する経費の見直しに取り組む必要がある。また、町の直接運営経費についても全般的な経費削減対策を検討するとともに、町内の効率の悪い処理区域について注意を払って見直ししていく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。